

会 議 録

会議の名称	第 5 回那珂川市文化芸術推進審議会		
開催日時	令和 5 年 6 月 29 日(木) 19:00～21:00	開催場所	勤労青少年ホーム 2 階 第 2 会議室
出席者	<p>1. 委員 長津委員、須川委員、簗原委員、鳥部委員、森委員 (オンライン)田北委員、関岡委員 (欠席者)柴田委員</p> <p>2. 執行機関(事務局) 吉岡文化振興課長、藏菌文化振興課文化振興担当係長、 神代文化振興課文化振興担当主査</p> <p>3. その他 株式会社地域計画建築研究所(コンサルタント) 2 名</p>		
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 ミリカローデン来館者アンケート調査結果(クロス集計結果) ・資料2 ワークショップ企画案 ・資料3-1 (仮称)那珂川市文化芸術推進計画(素案) ・資料3-2 (仮称)那珂川市文化芸術推進計画(骨子案) ・資料4 今後のスケジュール 		
公開区分	開示 ・ 一部開示 ・ 非開示 (理由:情報公開条例第 9 条第 2 号に該当)		
<p>議題及び審議の内容</p> <p>1. 第 4 回審議会の振り返り (株式会社地域計画建築研究所より説明)</p> <p>2. 調査報告</p> <p>(1) ミリカローデン来館者アンケート調査報告 (株式会社地域計画建築研究所より説明)</p> <p style="padding-left: 20px;">別添説明資料 1 のとおり</p> <p>(2) ワークショップについて (市文化振興課より説明)</p> <p style="padding-left: 20px;">別添説明資料 2 のとおり</p> <p>【質疑応答】</p> <p>[委 員]: 参加者対象に文化団体と書いてあるが、人数は 1 団体 1 人に絞ると考えているか。</p> <p>[事務局]: 多様な意見を聞きたいので、市民や文化団体等、多数の方に来てもらいたい。しかし、定員もあるため、人数が多くなるのであれば 1 団体 1 人とする可能性もある。</p> <p>[委 員]: ワークショップの参加者を集める方法は、団体に直接声かけを行うのか。公募ではないのか。</p>			

[事務局]：募集方法は、募集チラシの配布や掲示も行い公募とする。並行して、文化団体の人に直接声をかけて周知を高める予定。

[委員]：「ワークショップを行っているだけ」という印象が拭えない。ワークショップの目的が曖昧である。回数は1回ではなくてもよいのではないか。ワークショップを1回と定める理由を聞きたい。また、参加者のメリットをどのように考えているか。

[事務局]：確認であるが、複数回の開催を希望する理由として、現在提案しているワークショップについて、例えばパブリックコメント前に複数回に分けて行い、参加者数を増やしたいとの趣旨か。又は、パブリックコメント前とパブリックコメント中の両方を行うことがよいのか。

[委員]：どちらでもあり得るのではないかと。現在の資料の見せ方だと、ワークショップを1回行えば良い、という形だけに見える。意見が計画にきちんと反映されるのか不安を感じる。ワークショップで参加者にテーマを伝えても理解を得ることは難しく、実質的な意見を求めることができないのではないかと。

[委員] パブリックコメントでより多くの人に意見を聞くためには、ワークショップで周知を得ておく必要がある。そのため、間口が広いほうがよく、ワークショップの回数を増やすなど工夫が必要ではないかと。

[事務局]：計画策定にかかる調査としては、アンケートで市民の意見を聞いたが書面上であり、定量的なものである。一方、文化団体やその他の人からもヒアリング調査を実施し、定性的な話を聞いている。今回のワークショップでは、市民の意見から計画づくりを行うために、より意見の幅を広げたい。ワークショップをパブリックコメント前後に行うかによって変わるが、計画の施策や事業について、アイデアと意見を様々な人から聞きたいため、ワークショップを企画している。

参加者のメリットとして、現在または今後文化芸術活動に関わる人の後押しとなる支援策を検討するものであり、自身のニーズにあった施策が盛り込まれる可能性がある点は、メリットになるのではないかと。ワークショップの回数について、今回の提案では1回と設定しているが、回数を増やせるかどうかは今後事務局内で検討する。

[委員]：ワークショップを開催することと、審議会内で検討することの棲み分けが分かりづらい。現在上がっている計画案の中でも、すでに施策・事業のアイデアが出ているが、審議会内で出したアイデアではない。骨子案の内容をどれだけ委員で検討するかわからない。審議会内で検討したことと、ワークショップ内で出てきた市民の声がどれだけ計画に反映されるのか、不安を感じる。また、ワークショップの内容がすでに書かれているが、決定された内容なのか。

[事務局]：基本的には、ワークショップについては、審議会でも結果報告を行い、結果を踏まえて施策や事業アイデアを計画案として審議会ですすことになる。こちらについて審議会でも話し合い、各アイデアを施策に盛り込む

かどうかを判断する。本計画は10年間で想定しており、中長期的に考えれば、計画に盛り込む可能性のあるアイデアもあると考えている。計画への掲載方法については、自治体の考え方によって異なるが、必ず達成する施策のみを載せたい自治体もあれば、幅広く施策イメージを載せたい自治体もある。計画の掲載方法も委員の皆様にご審議していただきたいと考えている。

ワークショップの開催時期としては、パブリックコメント前のワークショップは広い意見を集めることが出来、計画に反映が可能だ。パブリックコメント中のワークショップはある程度計画が固まっている段階であり、審議会では議論がし尽くされているが、パブリックコメント中に出てきた意見を計画に載せるかどうか検討は可能である。一方、パブリックコメント後は計画が出来上がった後になるため、意見を計画に載せることはできないが、今後計画を実施していくときに、意見を尊重して実行に移していくことになる。

また、ワークショップの内容について、現段階ではまだ案の状態。回数を1回とした提案のため、幅広く多くの意見を聞く場を想定している。実現性の高い施策・事業アイデアを得るためのワークショップを開催したほうが良いのであれば、回数も含めて内容を再考する必要があるだろう。

[会長]：ワークショップに対して、その他意見はあるか。

[委員]：ワークショップとは、市民の幅広い声を聞くためという考え方ではないのではないか。1回の短い時間でワークショップを開催し、集まった市民がワークショップのテーマに対してアイデアを出すだけでは、充実した意見が集まらない可能性が高い。回数は2回、3回と繰り返し行う必要があるのではないか。市民のアイデアを計画に反映する目的が達成できないワークショップであるなら、意味がない。審議会で話された内容とワークショップ内で話される内容が繋がらない可能性もある。

[会長]：ワークショップの回数など、他に質問があるか。

[委員]：ワークショップについて今日決めなければならないか。

[事務局]：ワークショップをパブリックコメント前に行うか、後に行うかは本日決めたい。ワークショップの内容については、今回の内容も踏まえて次回新たに案を提示するので、再審議いただきたい。

[会長]：実施する時期に関する意見はないか。

[委員]：それぞれの実施する時期のメリットを知りたい。

[事務局]：まず、パブリックコメント自体は、計画がある程度出来上がった状態で披露し、計画に対する市民の意見を聞くものである。パブリックコメント実施中ないし、実施後は出された意見について、審議会の中で十分な審議ができない。パブリックコメント前であれば、計画に意見を言いやすく、出された意見について、審議会の中で十分な検討を行いやすい。

[委員]：市民の声を聞いて反映させるのであれば、パブリックコメント前が良いが、パブリックコメント中も、パブリックコメント後も意味はある。審議会とワークショップで出た課題やアイデアを計画に反映させることのできる時間軸で行う必要がある。

[会長]：時期として、パブリックコメント前に行うことが良い、ということで良いか。市民の声が施策に十分に生かすことのできるワークショップにする方向で進める。次回の審議会とワークショップの内容について話し合いたい。

3. 那珂川市文化芸術推進計画（素案）の検討

(1) 課題の再検討

(2) 基本理念・基本方針の検討

(3) 施策・事業の検討 (市文化振興課及び株式会社地域計画建築研究所より説明)
別添説明資料 3-1、3-2 のとおり

【質疑応答】

[委員]：素案の 26 ページの「第 5 章 主な施策・事業」についてコラムが入っているが、「(1) 文化芸術に係る情報を市民に届ける仕組みづくり」のみコラムを入れるのか。その他の項目には入らないのか。

[事務局]：サンプルで作っているもので、今日の段階では取組みの表やコラムは(1)しか入っていない。次回までにすべての項目に取組みの表やコラムを入れる予定。コラムは市民に向けて、施策や取組のイメージを優しく説明するため、既に本市で取組んでいる事例や、他市の先進事例を掲載したい。

[委員]：素案の 24 ページの図は計画の構想として捉えてよいのか。

[事務局]：基本理念に基づき 5 つの基本方針を挙げ、関係や位置づけの見解を表現した図だ。

[委員]：単純に図を見たときに、図の矢印を追っていくと「広がる」にたどり着き、その先がない。このため、本計画の目指すゴールがなく、分かりづらい。

[委員]：骨子案の「第 5 章 主な施策・事業」の数字に意味があるのか。

[事務局]：数字の順番等に特に意味はない。

[委員]：教育の現場では、数字に意味を持たせた方が良いと言われる。数字に意味を持たせることがよいのではないか。

[委員]：骨子案の「第 4 章 重点プロジェクト」にある子どもまんなかプロジェクトについて、タイトルの通り子どもを真ん中にした図をつくり、視覚的に分かりやすいものをつくったほうがよいのではないか。

[委員]：本日、計画素案や骨子案に対して、どれだけ話し合いを行ってよいのか、また、いつまでに決める必要があることなのかが分からない。

[委員]：施策・事業の内容は既存の課題から作られるものであり、根拠を照らし合わせたときに本当に実施できるかすり合わせを行って作られるもの

である。施策・事業の内容に対して意見を述べることは、今のタイミングで言うてよいのか。

[委員]：「検討」という言葉が多いが、実際に何を行うのか

[委員]：施策・事業がすでに作られている状況で、ワークショップで市民の方の意見を取り入れるためには、何を聞くのか。

[事務局]：審議会は今回を含めて今年度 4 回行う予定であり、パブリックコメント前に 3 回、後に 1 回を考えている。パブリックコメント前の全 3 回の審議会で意見を聞いて計画を作っていく想定だ。このため、今回意見を全て言わなければ計画に反映されないということではない。

[事務局]：一方、審議で重点を起きたいポイントはある。今回は、「第 4 章 課題」と「第 5 章」の基本方針の体系について、主に意見を聞きたい。重点プロジェクトや施策・事業は、今後事務局内で詰めていく必要があると考えており、今回意見を言うていただいてもよい。

[委員]：「基本理念」や「推進に向けて」と書かれている部分は仮であるか。また、素案も仮ではあるだろうが、今回、素案に対して意見をどこまで言うてよいか。

[事務局]：素案は、計画が出来上がったイメージを共有するため、参考資料として配布したもの。ただ、冒頭の背景や意識調査の流れなど大筋の部分は変わらないと考えている。一方、主な施策・事業については、現時点ではイメージとして考えてもらいたい。具体的な調整は、今後事務局内で行っていく。

[委員]：数字に意味を持たせるという意見に対して、骨子案の第 5 章の「届ける」が一番初めでよいのか疑問がある。

[委員]：素案の 17 ページのヒアリング結果の（４）で「市内の文化芸術活動は、南畑美術散歩や市民文化祭は知られているが、敷居が高い、分からないという意見もあります。」と書かれているが、どれくらいの割合の人が言った意見を掲載しているのか分からない。次の「他団体との交流については、文化芸術団体と交流している団体がある一方、接点がないという団体もあります。」とあり、両論が併記されているが、そうであれば前者の文化芸術活動についても、両論を書いたほうが良いのではないか。

[委員]：23 ページにある K P I の指標について、数値目標としてアウトプットが掲載されている。「ミリカローデン那珂川における鑑賞者数」とあるが、これだとアウトプットを達成するため、集客力のあるイベントを開催する方向に向いてしまうのではないか。再考をお願いしたい。

[委員]：資料が多いため、出来上がっている雰囲気があり、意見が言いにくくなっている。資料を減らしたほうが良かったのではないか。

[委員]：骨子案の「第 3 章 那珂川市の文化芸術を取り巻く課題」について、那珂川市には課題が 19 個もあるというネガティブな印象を受ける。記載された内容を見ると、課題感が様々であり、現状の課題とこれからの課

題などに整理すると良いのではないか。課題と呼ぶべきでない内容があるのではないか。その上で、やはり幾つかのカテゴリに分けたほうが良く、整理にはロジカルさが必要ではないか。

[委員]：課題の内容を見ると、ヒアリングで出た意見として、「カフェも新規導入予定」と書かれているが、ミリカローデン内に既に店が出来上がっている。情報のアップデートが必要な箇所があるので、見直しを行って欲しい。

[委員]：基本方針の「学ぶ」の位置づけについて、前回審議会では、学校教育の場が文化芸術に出会う場になると良いという意味合いで「学ぶ」が示されたと思うが、こうして計画素案に記載されたものを見ると、再考したほうが良いのではないか。改めて5つの基本方針について、例えば主語を考えてみると、多くは「市」が主語だが、学ぶだけは主語が「市」ではない。文化芸術を「学ぶ」とは発信や文化交流を行うことなどではないか。知識だけでなく、体験機会を通じた学びになるはずであり、そうになると「広げる」と一緒にしても良い。

[委員]：同意見だ。「学ぶ」は文化芸術の知識のみを学ぶことで良いのかと疑問がある。

[事務局]：本日の審議会で、何をどこまで意見いただくか事務局内で整理していく必要があった。策定スケジュールの都合上、今回は計画の全体像を見て頂きたいという思いがあったため、資料が多くなってしまった。今後の資料作成や報告などに、本日の意見を取り入れていきたい。

4. その他

今後の進め方（市文化振興課より説明）

別添説明資料4のとおり

[会長]：以上をもって第5回那珂川市文化芸術推進審議会を閉会する。